

こども園経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点（短期経営目標）	
<p>『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる』</p> <p>○自分の気持ちや考えを大切にすることの育成</p> <p>○意欲的に遊びや生活に向かう子どもの育成</p> <p>○自分から友達と関わる子どもの育成</p> <p>〈テーマ〉</p> <p>『どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりかがやいて』</p>		<p>○京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会で公開保育をするにあたり、園児の姿から非認知能力と認知能力を丁寧に捉え直したり、職員間で共有したりすることができた。関連するところはあるが、就学前では、非認知の部分（土台）を積み上げていくことの大切さを確認し合った。</p> <p>△園では、温かい雰囲気づくりや一人一人への配慮に努めている。しかし、生活習慣においては、家庭の事情や考え方に違いが見られた。また、保護者の多様な背景や家庭の事情を理解し、それぞれに合わせた対応することの難しさも感じた。</p> <p>○園児一人一人を丁寧に見取り、個別最適そがウェルビーイングにつながることを園内で共有した。園内研修には欠かさず『心の育ち指標図』をもとに話し合い、実践につなげていった。</p> <p>○人権意識を持続するため、学期ごとに全職員がチェックシートを活用し、振り返りを行った。また園児や保育実践に対して忌憚のないやり取りができる職員関係が、適切な教育・保育に結び付いた。</p>		<p>・網野学園での取組や研修を踏まえ、網野学園の目指す子ども像を職員で共有し、教育・保育の向上を目指していく。</p> <p>・園児一人一人の思いを丁寧に受け止め、主体的な遊びに向かえるよう環境を整えると共に、園児の表現や選択を大切にし、自ら感じ、考え、「やってみよう」と行動する力の育成につなげていく。</p> <p>・園児と保護者の多様な背景を理解し、温かい関係の中で、一人一人に応じた丁寧な関わりを大切にしながら家庭との連携に努める。</p> <p>・園児が包み込まれていると感じられる関係性を土台に主体的・探究的な遊びを展開し、非認知能力との相互性を踏まえた実践を進めていく。</p> <p>・園児一人一人の人権を大切にしながら、職員同士の語り合いと振り返りを続けていくことで質の高い教育・保育を目指す。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）	学校関係者評価	
保幼小中一貫教育の推進（保幼小接続）	<p>・「網野学園」の教育目標を基盤に、目指す子ども像と基本方針を理解し、園の教育・保育に取り組んでいく。</p> <p>・園児や児童との交流を通して、互いの理解を深め、架け橋プログラムについて学び合う。</p>	<p>・「網野学園」の指導の重点や取組の内容について職員間で共有し、共通理解を図った上で、実践し検証していく。</p> <p>・園児と児童との交流を通して、就学へのつながりを意識した取り組みを実践していく。</p>	<p>○保幼小一貫教育の推進に向け、職員間で取組内容を共有し実践を重ねる中で網野学園の教育方針への理解が職員間に広がってきた。</p> <p>△職員の異動により、網野学園の教育方針の共有に時間を要した。年度当初における共通理解は、十分に深まるまでにいたらなかった。</p> <p>○就学を意識した交流については、これまで受け身の参加が中心であったが、今年度は、校種間連携のもと、自園もねらいをもって話し合いを重ねる交流へと広がりつつある。</p> <p>△挨拶運動については、年間を通した継続的な取組として定着するまでにいたらなかった</p>	<p>・校種間連携により、互いよさを知り、教育や方針の共有が図られていると感じた。今後も継続して実施して欲しい。</p> <p>・小学校との交流を積み重ねていく中で、就学への期待をもてたことで、人と関わる力や社会性が身についたのではないか。</p> <p>・挨拶運動では、できたことを繰り返し認めていくことで、家庭にも現れ、保護者は、園での関わりが実感できるのではないかと。</p> <p>・架け橋プログラムの作成を是非行ってほしい。</p>	

<p>教育課程</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に探究的な遊びを楽しめるような環境づくりや援助の工夫をする。 『園児が包み込まれているという感覚』を土台に、園生活を楽しめるようにする。 遊びと非認知能力（意欲・協調性・自己コントロール等）との関りを意識しながら、実践を重ねていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児が「やってみたい」と感じ、興味や関心をもっての自ら遊びを進め、試したり考えたりしながら楽しめるような遊びの環境を整える。 園内で作成した『こころの育ち指標図』をもとに園児を見取り、一人一人に応じた丁寧な関わりや環境づくりを行う。 非認知能力は、遊びの中で育まれるという視点を持ち、遊びの環境や関わり方を探り、実践を通して保育の質を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的な遊び」については職員間で共通理解が進み、園生活の中で園児が自ら選択する機会を大切に実践が行われるようになってきた。 △「探究的な遊び」については、職員が問いを広げたり継続的に深めたりする段階までは至らなかった。 ○安心して思いを表出できる環境づくりを基盤とし、受け止められる経験を積み重ねてきた。また、園児を丁寧に見取る視点についても職員間で共有が進んできた。 ○ドキュメンテーションの作成を通して、非認知能力の育ちを意識した振り返りが進み、園児の姿や保育教諭の意図を言語化し。職員間で共有する取組が定着しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的という言葉が、好きな活動だけに偏ることなく、苦手なことにも挑戦できる環境づくりも大切ではないか。 一人一人に寄り添った関わりや振り返りが行われている。今後は、それを次にどのように生かしていくかが、大切である。また、絵本等を通した非認知能力の育成も行われている。 様々な行事等園児の頑張っている様子が伺えた。また、職員が保護者にどのような力が育っているか等、説明することができていた。
<p>子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して、園児の基本的な生活習慣の確立を目指す。 保護者一人一人に丁寧に寄り添い、安心して子育てができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 『網野学園家庭学習頑張り週間』の取組を通して、生活や遊びの土台となる基本的習慣の大切さを保護者に継続的に知らせていく。また、保育支援システムを活用し、園生活の様子を家庭に配信していく。 日々の会話、面談等を通して保護者と信頼関係を築き、不安や悩みに丁寧に応じることで、安心して子育てに向き合えるように支援する。 園庭開放日や園開放日を活用し、保護者同士が子育てについて気軽に話せる場となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携しながら、園児の生活習慣の確立に継続して取り組むことができた。また、行事の様子だけでなく、日々の園での姿についても配信を増やし、家庭への情報発信の充実を図ることができた。 ○保護者一人一人に丁寧に寄り添い、対話や面談を通して思いを受け止める支援を行うことで、相談しやすい関係づくりを進めることができた。 △園開放や園庭開放の利用は少なく、保護者同士が子育てについて語り合える場や機会は、十分に広がらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者は、園での園児の様子を知りたいと思うので、日々の関わりの中で、一言でも言葉を掛けることが、安心につながる。その積み重ねが、信頼関係の構築につながるため大切にしたい。 園の子育て支援は、面談だけでなく、保護者が頼りにできる職員や園であることが重要なので、今後も信頼される対応を継続し安心して相談できる環境を整えて欲しい。

<p>研修</p> <p>(教員の 資質向上・ <u>人権教育</u>)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ研究や園内研修を通して職員の資質向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・網野こども園の教育・保育の計画の内容を職員全員で共通理解し、個別最適な協同的な教育・保育を実践する。 ・人権を尊重する意識をもち、園児、保護者、職員が互いに向き合い思いやりをもって関わることを意識する 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育・保育計画の読み合わせや園内研修、配信による研修等を通して学びを深めていく中で、職員の専門性への意識が高まり、園児を中心に据えて考える姿へと変わりつつある。 ○クラス会議を定期的実施することで、各クラスにおける情報共有が充実し、チームとして保育に取り組む姿勢が整いつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、外部の方を招き、試行錯誤しながら職員が環境の工夫をされていることがよく分かった。 ・教育・保育計画には職員の園内研修について記載がある。今年度職員の異動もあり、従来の研修が職員に負担になっていないか見直す必要があるのではないか。再度研修を精査し、職員のメンタルケアを行ったうえで進めていって欲しい。
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、体制や取組の基盤づくりに力を注いだ1年であった。次年度は、その積み重ねを実践の質の向上へとつなげ、園児の遊びを見取り、探究的な保育をより深めていく保育を行っていきたい。 			